

W I C I

the world's business reporting network



WICI シンポジウム 2012 の開催にあたって

来る 10 月 31 日(水)に、第 5 回の「WICI シンポジウム 2012」を、“形式よりも実質優先の開示へ：〈統合報告〉の実践に向けて”を統一テーマとして、学士会館で開催することとなりました。

“形式よりも実質優先”は、〈統合報告〉を提唱する International Integrated Reporting Council(以下 IIRC)の創設母体の一つとなっていた Accounting for Sustainability を含めイギリスにおいては、社会を支える行動哲学に他なりません。IIRC は、その使命として、「有限な天然資源の過剰消費、気候変動、そして膨れ上がる地球の人々の暮らしを支えるきれいな水、食物および改善された生活水準の確保という、いまだ直面したことない」課題へ挑戦することへ役立つ新たな仕組み創りを掲げています。

これら 21 世紀にわれわれが直面する困難な課題へ挑戦しなければならないのは誰なのでしょう？ 産業界、専門職業団体、学界、政界、行政機関、国際機関、NGO といった組織体が取り組むべきなのでしょう？ これら組織体のすべてが、それぞれが担う役割に即して、専門的知識と専門技法を駆使して挑戦することは当然のことです。しかし、IIRC はそれだけでは十分ではないと考えています。これら組織体を構成する専門家のひとり一人が個人として、さらには社会を構成するあらゆる人々が、挑戦すべき課題を認識し、どのように挑戦するのかを模索し、それぞれが可能な範囲で挑戦することがなければ、課題の実質的な解決にはならない、と考えているようです。

持続可能性(Sustainability)を志向する地球規模の新たな経済モデルの構築が求められています。だからこそ、「財務、環境、社会およびガバナンスの情報を、明快で、簡潔で、首尾一貫し、比較可能な様式により、つまりは『統合された』様式に短くまとめて、一体化する」とともに、「実績だけでなく将来展開も含め組織の全体的な活動に関するものを、これまでのものより包括的で解りやすい情報」として提供できる〈統合報告〉をグローバルに定着させることが必要になります。IIRC は、2013 年に「〈統合報告〉フレームワーク」を確立させるべく、一連の活動を勢力的に推進しており、その一環として 11 月 2 日に東京において IIRC の評議会(Council)が開催されます。

このような“形式よりも実質優先の開示”は、2007 年の設立以来、World Intellectual Capital/Assets Initiative(WICI、http://www.wici-global.com/index_ja)が取り組んできた、次のような活動と軌を一にするものに他なりません。

- ・ 地球規模で共有できる事業報告を整備するグローバルなネットワーク組織として活動する。
- ・ 伝統的財務報告ではカバーできない知的資産／知的資本を含め経営資源の測定と報告のフレームワークを形成する。
- ・ 非財務データにより経営資源の管理可能性を高めるとともに、提供するデータの比較可能性を保つため、KPI を体系的に整備し、XBRL を活用して企業内外のステークホルダーとの間で活きた情報の共有を推進する。
- ・ これらの作業を進める基本姿勢として、開示を行う発行体の視点に立つとともに、発行体の自発的取り組みに期待し、必要に応じて WICI 関係者が発行体を支援する。

このように思いを重ね合わせることができる二つの組織が、協力し、互いに啓発することは自然の成り行きといえます。その具体例として、2010 年より、IIRC 事務局に WICI の特別研究員を Technical Manager として派遣し、〈統合報告〉フレームワークの完成に向けて協働していることを挙げるすることができます。この協働関係をさらに実りのあるものに繋げるため、IIRC が東京で評議会を開催し多くの評議員が来日する機会をとらえ、IIRC の協賛を受けて、別紙のようなプログラム案の「WICI シンポジウム 2012」を催すことにいたしました。

“形式よりも実質優先の開示”については、わが国のこれまでの開示実践では馴染みの薄いものであり、関係者のなかには違和感を抱く方も少なくないかもしれません。しかし、経済のみならず社会全般がボーダレス化を高めるなか、このイギリス生まれの社会を支える行動哲学に基づく開示へ取り組むことを避けて通ることはできません。この機会に、企業をはじめ各種組織の経営、会計、財務、IR、広報の関係者に集まっていただき、関連する分野の内外の牽引者である方々との深い議論を通じて、新たな知見を得ていただくと同時に、海外からの参加者に日本の考え方や取り組み方をインプットしていく場になれば幸いと考えます。

本趣旨にご賛同賜り、「WICI シンポジウム 2012」ご支援いただきますようお願い申し上げます。

2012 年 9 月 吉日

World Intellectual Capital/Assets Initiative

会	長	住 田	孝 之
ガ	バ	Mike	Willis
	ナ	Stefano	Zambon
	ン	花 堂	靖 仁
	ス		
	グ		
	ル		
	ー		
	プ		

WICI Symposium 2012

“形式よりも実質優先の開示へ: <統合報告>の実践に向けて”

主催 World Intellectual Capital/Assets Initiative (WICI)

後援 経済産業省 (METI)

協賛 国際統合報告評議会 (IIRC)

開催日 2012年10月31日(水)

会場 学士会館

プログラム

9:00-9:20	開会の辞	森田 松太郎 氏 (WICI Japan 会長)
	祝辞	西山 圭太 氏(経済産業省 経済産業政策局審議官) 市村 清 氏(日本公認会計士協会 常務理事)
9:20-9:50	基調講演	Ms. Jane Diploc (Board Member, IIRC)
9:50-11:10	Session 1: “企業の動向” ～活用される資源をそれぞれの「資本」概念に、どのように結び付けるのか～	
	司会者: パネリスト:	Mr. Charles Tilley (CIMA & IIRC TTF Chair) Ms. Amy Pawlicki (AICPA/WICI US) 昆 政彦 氏(住友 3M 取締役/ WICI japan) 鈴木 行生 氏(日本ベル投資研究所代表) 牛島 慶一 氏(株式会社日立製作所 CSR推進部長) 安井 肇 氏(あらた監査法人 あらた基礎研究所 所長)
11:10-12:30	Session 2: “戦略をどのように開示するのか” ～機密保持と良き開示とをバランスさせるには～	
	司会者: パネリスト:	Mr. Paul Druckman(CEO, IIRC) 渋谷 健 氏(コモンズ投信会長) Ms. Beth Schneider (AICPA/IIRC Technical Director) 長友 英資 氏(オムロン株式会社 社外監査役) 和賀 昌之 氏(三菱ケミカルホールディングス 執行役員 経営戦略室長) 沢味 健司 氏(新日本監査法人 パートナー)
12:30-13:30	昼食休憩	
13:30-14:50	Session 3: “重要性と比較可能性は両立するのか” ～両立にはどのような工夫が必要か～	
	司会者: パネリスト:	Ms. Amy Pawlicki (AICPA/WICI US) Mr. Olivier Servais(IASB, Director of XBRL Activities) 小粥 泰樹 氏(野村総合研究所 執行役員 金融ITイノベーション事業本部副本部長) 吉田 明生 氏(太陽 ASG 監査法人、WICI Japan) 芝坂 佳子 氏(あずさ監査法人 パートナー)

14:50-16:10	Session 4:“統合報告は企業開示を合理化できるか” ～企業開示戦略の展開～	
	司会者:	花堂 靖仁 氏(國學院大學名譽教授、WICI japan) Prof. Stefano Zambon(Ferrara University/ WICI Europe)
	パネリスト:	山本 高稔 氏(富士重工株式会社 社外監査役) 金田 晃一氏(武田薬品工業株式会社 シニアマネジャー) 森 洋一 氏(日本公認会計士協会、IIRC TTF) 古内 和明氏(監査法人トーマツ パートナー)
16:10-16:40	休憩	
16:40-18:00	Final Session: “統合報告の制度化は必要なのか”	
	司会者:	住田 孝之 氏(WICI Global 会長)
	パネリスト:	福本 拓也 氏(経済産業省 企業会計室長) 栗田 照久 氏(金融庁 企業開示課長) 松崎 裕之 氏(東京証券取引所 上場部長) Mr. Mike Willis(PwC/WICI US) Mr. Paul Druckman(CEO, IIRC)
18:00	閉会の辞	藤原 誉康 氏(藤原税務会計事務所/WICI japan)
18:30-20:00	ネットワーキング・ディナー(会場 学生会館を予定)	

総司会 三代 まり子 氏(特別研究員/WICI Global)

【お願いするスポンサー協賛金】

WICI シンポジウム 2012 のスポンサーとして、次のメニューからお選びいただき協賛金を提供いただきたく、お願い申し上げます。

A スポンサー:セッション 1~4 の個別スポンサー 協賛金額 80 万円

- ① プログラムの該当セッションに法人名とロゴを記載
- ② 会場優先席 15 席およびネットワーキング・ディナー10 名枠
- ③ 会場入り口に法人のプロモーションコーナーを設置
- ④ シンポジウム開催記録 (DVD および発言録) の提供

B スポンサー:ファイナルセッションの共同スポンサー 協賛金額 40 万円

- ① プログラムの該当セッションに法人名とロゴを記載
- ② 会場優先席 8 席およびネットワーキング・ディナー5 名枠
- ③ 会場入り口に法人のプロモーションコーナーを設置
- ④ シンポジウム開催記録 (DVD および発言録) の提供

C スポンサー:シンポジウム合同スポンサー 協賛金額 10 万円

- ① プログラムに法人名とロゴを記載
- ② 会場優先席 4 席およびネットワーキング・ディナー3 名枠
- ③ 会場入り口に法人のプロモーションコーナーを設置

以上